



飯豊町消防団広報紙 Vol.3

きずな

FIRE FIGHTERS

飯豊町消防団

消防団。それは将来にわたり地域防災力の
中核として欠くことのできない唯一の存在。

消防団の活動って？ 消防団の活動は消火ではありません

消防団は、火災や災害時に自宅や職場から駆けつけ、日頃の訓練と地域住民としての経験を生かして消火・救助活動などを行う、非常勤特別職の地方公務員です。

飯豊町の消防団員数は415名。地域の消防防災リーダーとして、平常時・非常時を問わず地域に密着し、皆さんの安心と安全を守るという重要な役割を担っています。近年は女性消防団員も増加しており、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍しています。

災害時

災害現場での消火をはじめ、地震や風水害といった大規模災害発生時の救助・救出、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎよなど様々な現場で活躍しています。



教育訓練

複雑多様化する災害や救急業務、火災予防業務の高度化に消防団員が適切に対応するためには、その知識、技能の向上が不可欠です。一般団員を対象とした研修会や訓練に加え、階級に応じた教育訓練などを受講します。



火災予防 広報活動

災害発生時以外にも、消防団では幅広い活動を行っています。予防消防活動です。地域を消防車両で巡回しての防災広報活動や住宅への防火指導などに従事しています。



◆編集・発行／飯豊町消防団広報編集委員会（飯豊分署内） ☎7212222



大切な人を守る 大切なまちを守る

消防団は、自分の仕事を持ちながら「自分たちのまちは自分たちが守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域防災活動のリーダーとして活躍するとともに、幅広いコミュニティ活動を通じて、地域振興の維持増進にも中心的な役割を果たしています。

地域の皆さんとのふれあいを大切にした消防団活動は、安心・安全なまちづくりの実現に欠かせないものです。まちを愛する一人ひとりの力を結集すれば、地域の安全は確かなものになります。

だからこそ、あなたの力が必要です。消防団への入団を待っています。

◆入団に関するお問い合わせ先
西置賜行政組合消防署飯豊分署 ☎72-2222
飯豊町役場総務企画課情報防災室 ☎87-0522

飯豊町消防団 分団活動紹介



本部分団

- 分団長 : 高橋 弘之
- 副分団長 : 舟山 純也
- 分団員数 : 41名



本部分団は1部3班体制、総勢41名で構成されています。今回は第二班通称「音楽隊」にスポットを絞ってご紹介します。

音楽隊は、山形県内では山形、鶴岡、寒河江各消防本部に設置されており、音楽隊全員が消防団員で構成されているのは唯一飯豊町消防団だけであり、全国的に見ても珍しく、県内でも草分け的存在です。

発足当時は消防職員と消防団員の人員構成で、男性ばかりでした。現在隊員は18名で、半数以上を女性が占めるようになり、雰囲気も明るくなりました。会社員、公務員、主婦などの稼業の合間に練習を積み重ね、町内で開かれる様々な消防行事や「ゆり園オープニング」「めざみの里まつり」等の各種イベントに参加し、音楽を通して「飯豊町消防団」が町民の身近な存在になるよう啓発活動を行っています。「町民と消防をつなぐ防火のかけ橋」として「防火・防災意識の高揚」に寄与できるよう演奏時には華やかに活動しています。

第二分団

- 担当地区 : 黒沢・椿
- 分団長 : 渡部 信義
- 副分団長 : 安部 良
- 分団員数 : 75名



第二分団として、昨年度は、町消防操法大会で小型ポンプで第四部第一班が優勝、積載車の部で第一部第二班が準優勝と素晴らしい成績を収めました。残念ながら、西置賜支部大会に出場した第四部第二班は優勝に手が届きませんでした。今年、昨年度以上の成績を目指し訓練を重ねています。

本年度、第三部第一班に軽積載車が配備される予定です。これを契機に第二分団だけで、消火訓練・中継訓練等を行い消防力の強化を図りたいと考えています。さらに、訓練を通して団員全員が機械器具の操作等が出来るようにし、災害時に慌てずに行動出来るようにしていきたいと考えています。

地域の行事等についても、積極的に参加し二分団の団結力を見せたいと思いますので、ご支援の程よろしく申し上げます。

第四分団

- 担当地区 : 小白川・手ノ子・高峰
- 分団長 : 横山 清彦
- 副分団長 : 小関 貴典
- 分団員数 : 102名



第四分団は、分団長以下102名で町の消防行事への参加、有事の際の活動はもとより地域住民の安心・安全のため、予防消防、啓蒙活動に取り組んでいます。年1回各部、各班で計画を立て、ポンプ車から積載車へ、可搬ポンプから積載車への中継放水等、多様な現場に対応できるように訓練を行っています。

また、毎年、演習前に「頭渡し」という伝統的な引継ぎを行っています。頭渡しとは、分団の会計引継ぎを行う儀式で、仲人を立てて、前年度の会計当番から次年度の会計当番への引継ぎを行い、最後に「謡い」にて締めるといふ襲名披露の様な儀式です。頭渡しについては先輩幹部の方にお尋ねしても、いつから、どのようなことで行われてきたかは不明です。先輩団員から引き継ぎ、後世に残していかなければならない伝統的行事だと考えています。

第一分団

- 担当地区 : 中・萩生
- 分団長 : 富永 俊博
- 副分団長 : 渡部 一弘
- 分団員数 : 89名



第一分団は、中・萩生地区を管轄し、分団長以下89名体制で消防団活動を行っています。

月2回の定期的な巡回、ポンプや機械器具等点検の実施、貯水槽の泥上げ等の活動を行っています。

有事に際しては迅速に現場に駆けつけ、冷静に判断し機敏な活動で被害を最小限のものとするよう取り組んでいます。

雪の多い冬期間の消防用水の確保、管理が重要となります。消火栓などが雪に埋もれ、どこにあるのか分からないようでは火災に対応できません。そこで、積雪期に雪に埋もれてしまう恐れがある消火栓や防火水槽、貯水池などについて定期的に除雪し、水利の確保に努めるようにしています。

また、消防活動の一環として、普通救命講習の実施、めざみの里WA踊り等、積極的に参加していますので、ご声援をお願いします。

第三分団

- 担当地区 : 添川・松原
- 分団長 : 二瓶 広和
- 副分団長 : 鈴木 幸則
- 分団員数 : 64名



第三分団第一部（松原部落）の紹介をします。第一部は、本年度2名の新入団員を迎え、現在15名の団員で活動しています。昨年度までは30代前半の団員が最も若手で、団員の確保に苦慮していました。今年度20代の団員の加入により、今まで以上に活発な活動や訓練ができています。

6月29日に行われる町消防操法大会の積載車の部に出場します。現在、悲願の優勝に向け、日々訓練に明け暮れているところです。機関員は全員2度目の出場で、前大会の悔しさをバネに自己練習にも力を入れています。

また、昨年10月には地区の自主防災会の訓練に私たち消防団も参加し、地域の皆さんと一緒に講習や訓練を受けました。なかでも起震車体験では、過去の大地震と同じ揺れを体感し、団員一同改めて地震の怖さを再認識する貴重な体験となりました。

第五分団

- 担当地区 : 中津川
- 分団長 : 伊藤 幸雄
- 副分団長 : 安部 貴志
- 分団員数 : 27名



第五分団は、人員減少に伴い平成24年の班再編成により2部2班制から1部2班制の構成になり、現在は分団長以下27名で活動しています。人員の減少はこの先も懸念される場所ではありますが、平成23年に機能別消防団が結成され、15名の消防団OBの方々に日中の人員不足に対応していただいております。

五分団と言えば白川ダム奥の山里の中津川地域です。飯豊山登山口があり大勢の方が春から秋に入山します。年に数件の遭難騒ぎがあり捜索要請があった場合には対応しています。昨年は2件の要請があり、普段の運動不足を痛感しながらも捜索活動をしました。

また、福島県喜多方市をむすぶ林道飯豊檜枝岐線が7月の大雨により道路が崩落しました。これにより福島県側の川入地区と市内との交通が寸断されたため、有事の際の出動依頼がありました。現在は、中津川地区と合わせ喜多方市川入地区も担当地区として担っています。